



わたしがいどんだ戦い 1939年

ブラッドリー作 大佐道子訳 評論社

母^{かあ}さんは、生^うまれつき足^{あし}が悪^{わる}くて歩^{ある}けないわたしをきら
って、家^{いえ}にとじこめる。だから、十^{じゅう}歳のわたしは、けんめ
いに歩^{ある}く練^{れん}習^{しゅう}をしていた。戦^{せん}争^{そう}の影^{かげ}がロンドンにせまっ
て、弟^{おとうと}のジエイミーの疎^そ開^{かい}が決^きまった。わたしは、弟^{おとうと}
の手^てをにぎって出^で発^{はつ}した。この家^{いえ}から逃^にげだしたのだ。
わたしたちは、疎^そ開^{かい}した田^{いな}舎^{なか}で、
スーザンと出^で会^あった。ほったらかす
けれど、ぶたない。いい人^{ひと}じゃない
と言^いうけれど、わたしたちによりそ
ってくれる。これまでにない、不^ふ思^し
議^ぎなこの気^き持^もちは一^い体^{たい}何^{なん}なの？

